赤石山は巍々として

世界に一つしかない正門と本館新校舎

飯田高校同窓会報

第36号
発行人
長野県飯田高等学校同窓会長
長坂好忠
編集発行人
平沢秀明
印刷所
㈱南信州新聞社

我が母校再び甦る
21世紀への飛翔着実に

母校飯田高校が平成六年十月に着工した校舎が今年二月中旬に完成し、三年生も少しの間、木の香も新しい雰囲気で授業を受けることができた。県下高校界屈指の直径40cmのコンピューター制御のSA型天体望遠鏡設置、改築記念事業委員会の滝澤具幸氏（高12）制作の陶壁画「アラベスク」の完成、さらに北川原温氏（高22）設計による世界でも例を見ないとされる南アルプスをアレンジした門柱門扉が完成した。

同窓会とPTAなどで組織する校舎改築記念事業実行委員会の働きかけと、これに呼応した母校に寄せる熱い思いの同窓生や関係ある企業、個人などが快く受付に応じて頂いた。

長坂同窓会長のあいさつのように、目標額三千五百万円のところ七千万円近い浄財が寄せられた。環境整備も、備品も充実し、残りは近く具体化される独立百周年記念事業への基金となる。

このほか予約注文とはいえ平成八年度用の同窓会名簿も、四千冊近い予約で先月から発送中だ。同窓生相互の連絡や、同年会や学年の周年大会などでの活用に利用できるものと期待されている。

本館竣工記念式盛大に挙行

平成八年十月十二日、来賓や同窓生、在校生ら約千五百人が参加して盛大に行い、創立以来三回目の本館竣工の大事業を喜びあった。

七十年の星霜を経て十年来の念願だった本館校舎が落成したとあって、同窓生の中には東京、名古屋、大阪からの参加も。

竣工式は外松憲実行委員会副会長（PTA会長）の開式に続いて、長坂好忠実行委員長（同窓会長）が「七十年の星霜を経た旧校舎の面影を生かしながら、近代的な重厚壮大な近代的校舎が完成した。これも各関係機関のお陰」と謝した。さらに明治十五年に郡市民待望の郡立中学校以来、紆余曲折の歴史を経て今日があると述べ、建学の精神である質実剛健、自主自立、自治協同を旨として、今日までに二万四千三百有余人を輩出したが、校歌の一節にあるように〝理想は高く知慮深く精華を掲げん美を成さん〟を探究してほしい」と挨拶した。

山崎志朗校長は「大学のキャンパスに匹敵する、この好環境の中で甘えていては、二万四千余の同窓生に顔向けができない。先輩たちが築いてくれた良き伝統を受けかみしめ、向学の気風を高めてほしい」と生徒を激励した。

このあと外松淳副実行委員長（同窓会副会長）が経過報告、県教委の式辞に続いて県議団を代表して吉田博美県議、市町村長を代表して田中秀典飯田市長がそれぞれ祝辞を述べた。来賓紹介、祝電披露に続いて堀口謙治生徒会長は「僕たちが初めてこの校舎に入ったときの感動は忘れることができない。この立派な校舎とともに、新たな伝統をつくりあげていきたい」と力強く誓った。

式典と祝賀式の休憩時間にはOBたちが、鉄筋コンクリート造りながら、廊下や天井などカラマツ材をふんだんに使った内装や、十八の普通教室、校長室、研究室、多目的ホールなどを懐かしそうに見学していた。また実行委員会で贈ったSA400PW型カセグレン式天体望遠鏡や正門、玄関ロビーの陶壁画などを感心したり批評したりしながら見入っていた。

祝賀会は旧体育館に場所を移し、OB最高齢出席者の前島忠夫さん（九七）の乾杯の音頭で始まった。

ご挨拶

同窓会長　長坂　好忠

平成八年度会報発行に当りご挨拶申し上げます。

わが母校は明治初年に郡民の熱い願いにより創立され、建学の精神を「国民の中堅となり、国家の要素たるべき人物を育成すること」と定め、遠大進取・質実剛健・自主自立・自治協同を旨に校風を確立、爾来明治・大正・昭和・平成と世の風潮と戦い、又趨勢の影響をうけ幾多の変遷盛衰と有為転変があったが、常に郡市民の注目と期待が寄せられ、生徒は誇りをもち文武両道を目指し切磋琢磨して来ました。永い歴史の中、時代の進展推移と共に人情も価値観等も変化し、時には様々な事態もあったが、伝統は守られて来ました。

今世紀末には輝く独立百周年を迎えます。その間同窓会員は二万四千三百有餘名（物故者含む）を数える。

会員は地元は勿論、朝野各層各界多岐に渉り各々の立場で夫々力を発揮、御健勝にて活躍され、本会はもとより組織された幹事を中心に同期の会。又支部長を陣頭に三十五支部の集い等夫々が個性溢るるユニークな活動をされ、本会活動推進の原動力となり御協力下さる諸兄に深甚なる感謝と敬意を捧げます。

本年は七十年の星霜、風雪に耐え歴史を刻した懐かしい校舎にかわり、その印象も残された、重厚壮大な四階建の温かみある近代的校舎が竣工し、未来を担う若人の修練の場に応しい立派な教育環境となりました。誠に感無量、欣快至極であります。

之偏に県当局始め多くの方々、就中同窓会員の汗を流し、物心両面に渉る御支援、御尽力のお蔭と御礼申し上げます。

本館改築記念事業実行委員会への募金、各種事業推進、赤石山は巍々としてと題した校歌はじめ応援歌集録のCD作製、正確を期した会員名簿の発行等何れも多くの方々の老壮青と年代を超えて母校や同窓会に寄せる熱い思いにより達成できました。本当に有難うございました。さすが飯田高校ならではと思いみんなに支えられた会長としての責任の重さを痛感します。校歌の一節「理想は高く知慮深く　精華を掲げん　美をなさん」と、新しい革袋には新しい酒を、「温故知新」「不易流行」更に新しい伝統を創造し母校を愛する会員が母校を介しての一期一会による一体感連帯意識をもち、お互いの絆も強く、人脈の広さ、信頼感の厚さを大切に同窓会と母校の発展に団結し努力したいと思います。一層のお力添えをお願いし、皆様の弥栄を祈念し挨拶とします。

（中四一回）

竣工に想う

学校長　山崎　志朗

十年来の懸案でありました本館改築工事とともに外構工事も完遂し、去る十月十二日、ご来賓各位のご参集のもとに、厳粛な記念式典が盛大に挙行できましたことは本校にとってこの上ない名誉であり、教学の責任を担うものとして、深甚なる感謝の意を表す次第であります。

新装なった本館は、七十年の星霜を経た重厚な風格をそなえた旧館の面影を残した、堂々たる白亜の殿堂であり、その内外における教育環境整備の充実は、県下に誇るべきものと欣喜の至りに堪えないところであります。

この事業にあたり、深いご理解とご勇断をもって心血を注ぎ、その完遂に務められた県当局はもとより、その設計並びに施工企業体等の関係者各位に衷心より謝意を表します。また、この事業に対し教育環境整備に全面的なご支援ご協力を頂きました記念事業実行委員会をはじめ、母校を限りなく慕う同窓生各位の温かいご理解やご支援に対しまして厚く御礼申し上げます。

顧みますと、本校は長野県飯田中学校として明治三十三年、西暦一九〇〇年、まさに二十世紀の黎明とともに独立し、爾来百年になんなんとするこの時期に栄えある式典を迎えましたことは、いまこそ質実剛健・自治・共同を旨とする、建学の精神に学ぶべしという教訓を与えられたものと自省の年にかられるところであります。

この学舎に籍をおくものは永い歴史のなかで、先人たちが営々、ししとして築いてきた輝かしい伝統と、地域における揺るぎない社会的評価を礎として、来たらんとする二十一世紀への飛翔のために、本校を飛躍的に充実発展させなければならないという使命と責務をひしひしと痛感しているところであります。

この責務を全うするためには、高松原に集う千余の学徒が、この事業完成の意義を深く理解し、県下屈指の由緒ある学府に学ぶ誇りを堅持するとともに、常に理想を高く掲げ、逞しい精神力と自信を構築するなかで精華を上げることだと確信いたしております。

この素晴らしい教育環境のみに陶酔し、偸安の夢をむさぼるようなことがあっては、「赤石山は巍々として我が南信の脊を成し」と絶えず本校への限りない讃歌を送り、夢多き青春時代を過ごし、雄々しく巣立っていった二万四千余の同窓生に何と申しひらきができるでしょうか。学ぶものとして、心しなければならない今後に負荷された大きな課題であると考えております。

今、この恵まれたトレンディーなキャンパスで、学ぶ喜びを体得し、人生を論じ、教師や学友との人間的な触れ合いを深めるなかで人格を陶冶し、大きく雄飛する姿を思い浮かべるとき、万感胸に迫るものを感じる次第であります。

新生・飯田高等学校の門出にあたり、同窓生各位に今後一層のご指導・ご助言を賜りますよう、切にお願い申し上げ、ごあいさつといたします。

本館竣工式典に寄せて

飯田市長　田中　秀典

本日ここに、かねて改築中の飯田高等学校本館改築工事が完工し、竣工記念式典が挙行されるに当りお祝いを申し上げる機会を得ましたことは私の深く喜びとするところであります。

教育が、国家・社会の繁栄の基礎であることは申すまでもありません。殊に高等学校は、後期中等教育の場として、個人の人格形成に大きな影響を及ぼすものであります。

本校においては、今日まで幾多の有為な人材が育成されてまいりましたが、これは歴代の教職員並びに関係各位の御努力によるものであり、心から敬意を表する次第であります。

大正十四年十一月に現位置に建てられた旧校舎は、明治十五年創立の本校の豊かな伝統・自由闊達な校風のもとで七十年の歳月を刻んでまいりました。

しかし、その歴史ある校舎も既に老朽化し、ここに新校舎改築の気運が盛り上がり、十三億余円の巨費をもって新校舎・外構工事の改築計画が進められ、以来、県・教育委員会・学校教育関係者・工事関係者及び関係各位の御尽力により、ここに新校舎が完成し教育施設が一層充実されましたことは、まことに慶祝にたえないところであり、今日の式典を心からお喜び申し上げます。

また、私も卒業生の一人として今日の輝かしい式典を真に光彩あらしめられますことを念願するものでございます。

終りに臨みまして、関係各位の教育愛と御熱意に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、お祝いの言葉といたします。

参加者インタビュー

① 新校舎に対しての感想
② 生徒に望むこと

◇高6回
平沢正通　千葉市
①月並の言葉ですが非常に立派な校舎ができた。
②大いにスポーツが強くなって欲しい。甲子園に出て是非校歌を聞きたい。

◇高14回
菅沼哲夫　飯田市
①天下屈指の建物で高校とは思えない。大学の学園に行ったようだ。
②伊那谷だけでなく、眼を日本全国へ向けて欲しい。

中47回
長沼計司　飯田市
①建物が同じ場所に建てられた為違和感がない。フローリングがとても良い。
②一言でいえば質実剛健を望む。

中42回
林　虔二　名古屋　中京支部長
①想像以上の立派な建物です。
校庭が狭くなったのではないか。
②しっかり勉強が出来る事が幸だ。

高44回
田中知恵　（大学二年）高森町
①前の校舎も形容しがたい味があったが、新校舎は非常に素晴しい。
②しっかり勉強して、種々なことをしてほしい。

中36回
田中明夫　中川村
①屋上がないのが悲しいが立派な校舎である。私達は屋上に立って浩然の気を養ったものだ。
②「或は学び或は馳せ」の校歌の精神で頑張ってほしい。

中41回
深澤清廣　静岡市
①前の校舎のイメージが残っていて大変立派な校舎である。
②私が県外へ出て体験したことから考えて、井の中の蛙にならず県外はもとより国際的にも活躍してほしい。

玄関前でのインタビュー

お詫びと訂正

先月発行した平成八年度版の同窓会名簿の中で誤りがあり、ご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び致します。

【訂　正】

次の方の（故）をとる。
中28　武村(戸崎)三　P58
中35　市瀬　晴夫　P84
高19　北沢準一郎　P320
高20　長沼　義文　P337

次の方の出身校を松高（理）にする。
中46　伊藤　英造　P129

（会員名簿作成委員会）

◇本館改築記念事業の概要◇

1．教育機器等整備事業
- 天体望遠鏡一式
  主望遠鏡…ＳＡ－400ＰＷ型カセグレン式反射望遠鏡
- 学校備品類整備
  印刷機、シュレッダー、物置、スチール机、脇机ほか

2．教育環境整備業
- 正門一式　設計者　北川原　温（飯田高校22回卒）設計無償
  門扉…ステンレス製、敷地…石張り
  校名サイン…御影石
- 陶壁画の原画制作　作者　滝沢　具幸（飯田高校12回卒）
  題名…「アラベスク」　壁画寸法…縦５ｍ×横４ｍ
- 庭園等整備　庭木の剪定、移植、新規植栽、園路設置、芝張り

3．記念式典
- 平成８年10月12日　挙行

飯田高等学校本館改築記念事業会計収支中間報告

収入合計額　69,986,548円
支出合計額　24,049,492円
差引残高　45,937,056円

【収入の部】（単位：円）

科目		予算額（A）	収入済額（B）	差引き増減額（B−A）	説明
1寄付金	1篤志者等	13,600,000	13,961,000	361,000	243件
	2同窓会員等	54,000,000	54,322,532	322,532	4,578件
2雑収入	1預金利息	635,000	703,106	68,016	
3借入金	1借入金	1,000,000	1,000,000	0	飯田高校同窓会から借入
合計		69,235,000	69,986,548	751,548	

【支出の部】（単位：円）

科目			予算額	支出額	予算残額	説明
1総務費			4,185,000	3,785,792	399,208	
	1事務費		1,070,000	812,459	257,541	
		1会議費	600,000	399,366	200,634	
		2賃金	70,000	58,100	11,900	
		3消耗品費	350,000	332,283	17,717	
		4通信費		22,710	27,290	
	2募金費		3,115,000	2,973,333	141,667	
		1旅費	200,000	100,000	100,000	
		2印刷費	400,000	380,810	19,190	
		3消耗品費	50,000	43,148	6,852	
		4通信費	1,000,000	990,000	10,000	
		5振替手数料	300,000	235,175	64,825	
		6支部還付金	1,165,000	1,224,200	△59,200	18支部
2事業費	1事業費		36,814,000	19,263,700	17,550,300	
		1天体望遠鏡	12,350,000	12,349,700	300	
		2陶壁画原画	3,914,000	3,914,000	0	
		3正門製作	12,550,000	0	12,550,000	
		4前庭整備	5,000,000	0	5,000,000	
		5学校備品整備	3,000,000	3,000,000	0	
3行事費			5,000,000	0	5,000,000	
	1式典費		2,992,000	0	2,992,000	
		1記念品費	680,000	0	680,000	
		2印刷費	1,589,000	0	1,589,000	
		3消耗品費	255,000	0	255,000	
		4通信費	468,000	0	468,000	
	2祝賀会		2,008,000	0	2,008,000	
		1食糧費	1,608,000	0	1,608,000	
		2使用賃借料	400,000	0	400,000	
4償還金	1償還金	1借入償還金	1,000,000	1,000,000	0	
5予備費	1予備費	1予備費	22,236,000	0	22,236,000	
合計			69,235,000	24,049,492	45,185,508	

八年度定期総会

平成八年度本会の総会が七月二十日、飯田市錦町のシルクホテルで開かれ、同窓生の老若男女約二百人が出席し、総会議事を審議したあと、高校十四回卒、理学博士石田瑞穂さんによる「日本の地震活動の特徴」のタイトルの記念講演を聴いた。

総会に先立って当日午後一時から幹事会を行い、午後二時から総会に入った。宮下洌事務局長の司会により、同窓物故者への黙祷から始まり、外松淳嗣会長の開会の辞、長坂好忠会長の「本日の総会に東京や静岡からも参加下さり感謝申し上げます。三十五支部の代表者を含め、一万八千人の既存の会員のうち四千余人から寄付を頂いて、本館建築に係わる施設充実に役立てることができた。これとともに会員名簿の発行や校歌・応援歌などを収録したCDの作成ができることになり、ご同慶に耐えない」とあいさつ。

続いて山崎志朗校長から「物心両面にわたる母校への支援に対し感謝感激だ。飯田高校の本館校舎は、県下で稀にみる立派なものだが、画餅の誇りを受けないよう頑張って参りたい」と決意を表明したあと「男子進学校だった本校も、年々女子生徒の比率が高まり、現在四二・六%だが、近い将来男女半々になるだろう」と予測した。

七年度の会務報告は宮下事務局長、決算報告を伊藤会計、会計監査報告を大田中監事より行い承認。八年度の収支予算を伊藤会計、飯田高校本館改築記念行事を横田、高安、三浦各担当部長から報告があり、全議案とも原案どおり承認された。

校歌・万歳三唱、高安副会長の閉会の辞のあと、石田さんの講演を興味深く聴いた。日本地震学会長というネームバリューもあり、一般市民や報道関係者らの聴講も百人を超す盛況だった。

写真＝同窓会総会

県下の強豪抑え優勝

高校英語ディベート大会

飯田高校語学班（園原信枝班長）は十一月三日、上田染ケ丘高校で行われた第四回長野県高等学校英語ディベート大会で優勝し、併せて参加二十五チームの中の最優秀選手におくられる「ベストディベーター」に二年生の梶間雅代さんが選ばれた。

語学班は顧問の池上博教諭（四三）の指導のもとで第一回から参加しているが、最初の年は0勝3敗で予選リーグで敗退（蟻ケ崎優勝）、二回目は4勝3敗で三位（屋代優勝）、昨年の第三回（諏訪清陵優勝）は決勝リーグ1勝2敗でベスト4となった。

今年こそは上位入賞をとの熱意に燃え、放課後や休日返上でトレーニングを重ねた。今年のテーマは「イジメをした生徒は、学校から放校（退学・転校など）されるべきか否か」とのテーマが与えられた。討論寸前になってジャンケンによって、放校されるべきか否かを選択し、三十五分間の討論によって、一つの予選リーグ五チームの中から最高位一チームの代表を決めて決勝リーグに進出できる仕組み。

出場チームの中には長野、深志、上田、清陵などの強豪チームがひしめいており、優勝を目指してはいたが優勝ができるとは思わなかったという。

本校からは語学班三チームが出場し、優勝したのは4勝0敗の梶間雅代（高森中出身）、唐沢真梨子（高陵中）松村麗子（天竜中）さんら三人のチーム。今年の同校三チームの全体の成績でも三勝2敗の好成績だった。

最高賞に選ばれた梶間さんはAFS留学生となって昨年一年間アメリカに留学した効果が表れた。賞状とトロフィーを得た喜びについて「休み返上で仲間たちとレッスンした甲斐があってうれしかった。大学は理系に進みたいが、今回の貴重な体験は今後に生かされてくるものと思います」と話していた。

県大会で優勝した本校語学班

顧問の池上教諭は「三年間に亘る先輩たちの努力の積み重ねと、AETのマギーさんの熱心な指導によって栄冠を得ることができ、決して偶然ではなかった」と喜んでいた。

七年度一般会計決算書
八年度一般会計予算書

会員動静

平成八年度（十月一日）現在の同窓会員数は下記のとおりです。

会員総数

- 全会員数　24,337名
（うち在校生会員）1,117名
- 把握会員数　17,500名
- 終身会費納入者数　661名

H8.10.1 現在

平成7年度一般会計収支決算書

収入合計額　17,673,201円
支出合計額　12,399,350円
差引残高　5,273,851円

【収入の部】

科目	本年度予算額	本年度決算額	増・減	備考
繰越金	6,208,272	6,208,272	0	
入会金	540,000	540,000	0	
維持会費	5,500,000	8,926,800	△3,426,800	
在校生維持会費	1,800,000	1,800,000	0	
特別会計戻入れ	0	0	0	
雑収入	300,000	198,129	101,871	
合計	14,348,272	17,673,201	△3,324,929	

【支出の部】

科目	本年度予算額	本年度決算額	増・減	備考
(総務費)	(5,040,000)	(5,581,525)	(△541,525)	
人件費	2,800,000	2,849,783	△49,783	
事務費	300,000	421,310	△121,310	
慶弔費	100,000	215,385	△115,385	
総会費	550,000	542,824	7,176	
諸役員会費	160,000	155,647	4,353	
通信費	50,000	145,588	△95,588	電話料振替
印刷費	500,000	419,713	80,287	
旅費交通費	320,000	223,246	96,754	
振替手数料	180,000	165,320	14,680	
雑費	80,000	442,709	△362,709	記念誌補助
(事業費)	(3,290,000)	(3,017,825)	(272,175)	
支部補助費	290,000	300,000	△10,000	
会報発行費	2,000,000	1,739,,009	260,991	
諸会合会費	200,000	118,776	81,224	
OA化諸費	800,000	860,040	△60,040	
(クラブ助成費)	(1,800,000)	(1,800,000)	(0)	
(特別会計繰入)	(2,000,000)	(2,000,000)	(0)	
(予備費)	(2,218,272)	(－)	(2,218,272)	
合計	14,348,272	12,399,350	1,948,922	

平成8年度一般会計収支予算書

【収入の部】

科目	本年度予算額	前年度予算額	増・減	備考
繰越金	5,273,851	6,208,272	△934,421	
入会金	540,000	540,000	0	新入生360名
維持会費	6,000,000	5,500,000	500,000	
在校生維持会費	1,800,000	1,800,000	0	新入生360名
雑収入	300,000	300,000	0	
合計	13,913,851	14,348,272	△434,421	

【支出の部】

科目	本年度予算額	前年度予算額	増・減	備考
(総務費)	(6,260,000)	(5,040,000)	(1,220,000)	
人件費	3,700,000	2,800,000	900,000	
事務費	380,000	300,000	80,000	
慶弔費	120,000	100,000	20,000	
総会費	550,000	550,000	0	
役員会費	160,000	160,000	0	
通信費	150,000	50,000	100,000	
印刷費	500,000	500,000	0	
旅費交通費	320,000	320,000	0	
振替手数料	180,000	180,000	0	
雑費	200,000	80,000	120,000	
(事業費)	(3,400,000)	(3,290,000)	(110,000)	
支部補助費	400,000	290,000	110,000	35支部
会報発行費	2,000,000	2,000,000	0	
諸会合会費	200,000	200,000	0	
OA化諸費	800,000	800,000	0	
(クラブ助成費)	(1,800,000)	(1,800,000)	(0)	
(特別会計繰入)	(2,000,000)	(2,000,000)	(0)	
(予備費)	(453,851)	(2,218,272)	(△1,764,421)	
合計	13,913,851	14,348,272	△434,421	

①予算に定める項の流用について、会長の専決処分を認める。
②予算の補正については、決算の承認をもってこれに代えるものとする。

支部だより　北から南から

母校大改築を機に　支部の活性化を

下久堅支部

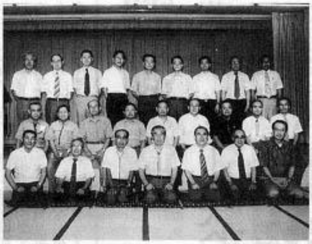
この度本館が改築、それに伴って施設も画期的に整備されました。母校が益々歴史・伝統に相応しい姿になったことは、誠に喜ばしく意味のあることであります。

当支部でも愛校の念から関心が高まり、特に寄付金については積極的な協力がなされました。また、新築なった本館や、母校全体景観を懐かしみたいとの声が起こり、七月十七日の役員会には十数名が訪れ、夫々の感慨に耽り心を満たすことが出来ました。

次に八月十日には定期総会で、会長・事務局長さんをお迎えして盛会に催されました。その際事務局から細部の資料による現況報告等を聞き、同窓会への盛り上がりを増すことになりました。

記念すべき今年を動機に、支部の活性化のことが話され、それがためには役員組織の確立が必要との意見が出されました。

（中33　木下安巳）



下久堅支部総会

本会から役員を迎えて現況報告

川路支部

去る五月十七日天竜峡ホテルにて平成八年度川路支部総会を開催する。本会より長坂同窓会長・山崎学校長・宮下事務局長等の御出席を得て、総計三十七名の参加をみる。

支部総会は必要に応じて会を開いていたが、今年は母校本館新築完了の年でもあり、本会より近況をお聞きしたり、さらに地区校友のつながりを深めたいとの声がおきてきたことや、中島支部長さんの辞任による役員改選の必要も生じ、三月十五日役員会（準備会）を持ち進めてきた次第。

(1)長坂会長より　本館建築の進捗状況の説明。

○募金について、当初予想したより、大幅に上回っている現況への感謝の意の表明あり。

○有名会員の作品より成る玄関正面の大壁画の説明。門柱の説明あり。

○天体望遠鏡に関する施設の拡充の話等々あり。

(2)山崎学校長より。間もなく百周年を迎えんとする伝統ある母校のさらなる発展への熱意の発言、本館建築への協力へ感謝、進学状況、部活動の姿等の話あり。

(3)宮下事務局長より。本館建築状況の具体的な説明。十月の記念式典についての件などの話あり。

懇談の宴に入り、久し振りの会合にて地域にいる者ではあるが、何か一つの飯中（飯高）スピリットと言うか、年齢を越えた心の通うものを感じ杯を重ね佳境に入る。毎年定例に会を持ち親睦の研修会がしたいなどの案が出る。肩を組み「赤石山」を声高らかに合唱、老いも若きも、まぶたにジーンとくるものを感じつつ高らかに万才三唱をして散会となる。

（中35　今村[illegible]

初顔出席で意気揚がる

山本支部

山本支部活動の活性化を願って、平成六年度に支部会員名簿を同窓会事務局の今は亡き後藤武巳君の協力を仰いで、幹事の伊藤尚和君（高７）を中心に作成されたが、六年度総会で会員の移動が散見されたので、七年度総会に充実した会員名簿の発行に意を注いだ。

山本支部の平成七年度総会を、十一月二十五日地区内の田中屋食堂で開催した。

たまたま総会当日が土曜日だった関係で出席者が過少（十八名）なことが残念であった。

同窓会本会から宮下事務局長の参席を戴き、井上副支部長の司会で進行された。支部物故会員に黙祷を捧げ、塚田支部長から七年度支部会務の報告と挨拶があり、宮下事務局長から本会の会務、特に母校本館建設と進学状況、校門建設と同窓会員篤志寄付状況等、会員が関心を寄せている事項について詳細な説明を兼ねて祝辞を戴いた。土屋幹事（会計担当）から、七年度会計報告、会員名簿等について修正を問うた。竹村重人副支部長の会議閉会の挨拶のあと、支部総会の目玉は懇親会。今回は初めて出席した移住組の久保秋雄君や、三十代の若い会員も数人出席され、とかく白髪皺顔主流の同窓会とは異なった意気揚がる宴席となった。

伊坪君（高33）の音頭で校歌、応援歌（勝利の曲、友よ若木の）を声高らかに合唱、山本支部の意気を示し、会員の健勝を願い、次年度総会のより盛会を期して散会した。

（中46　竹村龍之助）

山本支部総会

雪の中支部総会開く

丸山支部

丸山支部の総会を、平成八年二月十八日、今宮半平で開催しました。

前夜までの大雪で、歩くにも大変な日であったにもかかわらず二十三名が参加し、田中支部長の挨拶により始まりました。

本会より、長坂好忠同窓会長が臨席し母校の現況、新校舎の完成等について祝辞の中で話がありました。懇親会では酒を[illegible]ほどに先輩、後輩と話が弾みカラオケによりみんなの気持ちも大変盛り上がり、数時間の懇談も全員輪になって、母校の校歌の熱唱で終了しました。

また次回の総会には、若い年代の多数の参加ができる様、高校卒業生を中心に支部の輪を広げるため、声をかけていくことを願い支部総会の報告といたします。

（高19　小沢仲好）

会員の増加に努力

竜丘支部

支部定期総会を長坂会長、宮下事務局長のご出席を頂き、六月二十三日地元ドライブイン開善路で開催。平成七年度事業報告、会計報告、平成八年度事業計画、予算ならびに、本校本館改築工事の現況の概要など詳細に報告した。竜丘支部は会員百五十三名で郡外勤務会員も多く出席率はよくないのが現状である。本会からの連絡事項に重点を置き、会員の親睦を主目的として会員の増加対策に役員とともに努力している。とくに総会の出席率の向上を図るため、次期総会には、小牛長野県産業環境保全協会技術専門委員として県内業界の実地指導をしているので、生き残るための問題点の多い水質汚濁、大気汚染ほか公害全般について講演を行い、会員の出席率の改善の一つとして努力したい。

（中40　代田久郎）

事務局作製の名簿に感嘆

豊丘支部

豊丘支部の会員の全容を正確に知りたいとかねがね考えていたところ、幹事に同窓会事務局作成の支部名簿をいただきました。なるほど、これなら我が願いを十分満たしてくれると感嘆した次第です。

（中29福澤文雄）

老若会員の連帯進む

松川支部

本年度の総会は八月二十五日(日)に同窓会長、校長先生を迎えて町公民館を会場に開かれた。

事業会計や計画、報告は例年のようであるが、目立った点をあげると、

(1)出席会員が二十余名となり全会員二百一名の約一割となった。

この会の出席については、幹事会の運営等を通じて向上してきている。来年は友達を誘って連れて来ると言ってくれる同窓生もあり、老若の連帯が日に進んでいくように思う。

(2)母校紹介のビデオを見学。これは、もう一度見たいという人もいた。新校舎、昔の校舎、学園生活の様子など感銘深かった。

(3)講演・美博専門研究員木下進先生がスライドを利用して「飯田市の環境調査を実施して—自然の遷移の現状と人間の意識とのずれ—」と題して動植物の生息帯がどんどん変わっているが人間はその変化に気づいていないと指摘され感銘を深くした。

（中38　宮沢友彦）

活気を取りもどそう

竜江支部

本年竜江の飯田高校同窓会の席上、松島勝郎さん（中35　元飯田市教育委員長）からの発言で、最近飯田高校の新築がなされて素晴らしい校舎になったが、どうも飯田高校生が活気がなくて甚だ残念でならないと言う意見が出された。その話の中で昨年甲子園行きを獲得した佐久長聖高校の話題が上がった。殊にこの学校は私立で校長先生は僧侶とお聞きしたが、同校の先生方が一丸となって甲子園行きに努力した話を承った。

同長聖高校の例をみても同校の先生方が先輩も多くおられて、本気で取り組んだお話こそ誠に今日の時代に大変必要なことではなかろうか…？。

飯田高校には現在先輩の先生方が多数おられるとお話を承り是非先生方の積極的努力により何とか他校に負けないスポーツを送って戴きたい。この一つのスポーツの盛り上がりが必ずや学校の活気を呼び起こしひいてはこれが伝統、校風へと位置付ける事は、間違いありません。頑張って下さい。

（中37　木下　富）

熱のある講演に感銘

伊賀良支部

伊賀良支部総会は八月十五日午後三時から、飯田市北方小鈴食堂に同窓会員約五十人が出席して開かれた。

原一郎支部長の挨拶に続いて、長坂好忠本会会長の会務、交付金、校舎竣工などについて謝意、現況報告を含めて挨拶があった。この後、平沢秀明幹事長からの会務、決算、予算の報告を承認。記念講演はJA信州いいだ組合長であり、先程、長野県JA県連共通会長に就任した木下順一氏が、「生命の源泉・農業の発展を願って」と題しての熱のある講演を感銘深く聴いた。

これら全事業終了ののち、盃を傾けながら旧交を暖め合い、母校や同窓会の発展を確かめあった。

（高４　平沢秀明）

伊賀良支部懇談会

同年会だより
わが青春の回顧録

明春母校を訪問 同窓生の繋がり求め
松本支部

松本支部総会

松本支部では、昭和五十一年の設立以来「市民タイムス」で周知を計りつつ、毎年、総会を開いています。

今年度の総会は七月十三日、山崎学校長・宮下事務局長を来賓に迎え、駅前の仙岳で開催しました。吉野俊（中43）支部長のあいさつに続き、恒例の会員講演を刀剣の研磨業をしている宮下久之氏（中43）にお願いし、「信州の刀工について」を聴講しました。

パーティーでは出席者一人ひとりの近況報告を兼ねたスピーチで一段と打ち解け、年に一度、青春時代と伊那谷に思いを馳せ、校歌・応援歌を熱唱して散会しました。

同窓生が常に繋がりを持つことができるような支部づくりを進めている松本支部では、明春には新装なった母校を訪問しての総会を計画しています。多くの支部会員の参加を期待しています。

（中47　金田　敬）

老若相見えての総会
鼎支部

去る二月二十四日、総会を開催しました。今までご活躍願った会長の福沢覚一郎さんが体調を崩され、辞意の表明があったのを受けて、会長の改選と、同時に他の役員の改選も行われました。

当日は平安閣を会場に二十六名出席し、最高齢は東鼎の平岩正治氏（中35）、最若年は高22回卒の五十君親彦氏。老若相見え、和やか、かつ活発な総会でした。

校歌斉唱の時は皆青春時代に戻り、今は無き学び舎に思いを馳せた会でした。

（高12　小林賢二）

鼎支部総会

二二会近況報告
30周年の再会期す

卒業二十五周年記念行事が終わってはや二年がたちました。二百三十名が参加したあの感激を忘れずに、毎年九月十日に地元会員の例会を開いています。また、東海地区は昨年、関東地区は今年と、それぞれ支部が発足しました。三十周年には再び多くの級友と再会できることでしょう。

新校舎の校門を同期生の北川原温君が設計し、ロビーには北野敏美君の版画が掛けられています。二十五周年には旧校舎が取り壊されたところでしたが、私どもの心が二人の作品を通じて新校舎に引き継がれることになり、たいへん嬉しく、また誇りに思っています。

（高22　前沢　元）

飯中四一会の自慢
無尽で集まる24名

中41回の私たちはたいへん恵まれていると思う。四十年以上も続いている同級生だけの無尽の会「青莪会」があり、二か月に一度会を持ち、現在でも正会員二十四名。遠くは静岡の友もいる。会合にはメンバーだけでなく、同級生だれでも自由に参加している。

この会がもとで、昭和六十一年に三百ページの記念誌「飯中四一会誌」ができた。このときの編集委員が事務局となり、現在でも同級生との連絡を取り続けていてくれる。

また、平成二年から四一会誌「青莪」を年一回発行、ことし第七号が出る。会員の中に同窓会長がいるのも、母校の様子がわかり、ありがたい。

ことしも一年前から話が出て、母校の本館竣工記念式典の翌日十月十三日に学年全体の同級会を計画し、その通知を受け取ったところである。

八・九・十一記

（中41　牧内　政孝）

高松校舎落成のころ
中29　上松陽之助

私たちの飯中29回卒の会を不朽会という。

私たちは大正十三年四月、今の美術館の所にあった飯田中学校に制帽・着物・袴姿で入学した。

生物学の階段教室で、小学生気分が抜け切らず悪ふざけをする生徒を立たせて、北原寛先生が大声で叱りつけていたことが強く印象に残っている。

冬休み前に高松の新校舎が落成し、引っ越しが始まった。机・椅子・その他の備品を私たちは担いで運んだ。木造の校舎を見慣れていた私たちには、鉄筋コンクリート三階建ての新校舎はすばらしいものであった。教室はまだ昔風の炭火の暖房であったため、授業中失神して倒れる生徒が出た。原因はコンクリート構造の教室を密閉したための一酸化炭素中毒とわかり、それ以降は換気に注意するようになった。

屋上は四方の景色が良く、これを眺めながらの校歌や応援歌の練習は楽しいものであった。

鑑賞できなかった隅田川の夜景
― 三九会 ―

中39回卒業生は昨年九月二十八日、全国から二十五名が参集して、東京の隅田川の船遊びで総会を開きました。両国の江戸東京博物館を見学して今回の目玉でもある屋形船に乗り込み、議事もそこそこ宴会に入りました。

暫くぶりに酌み交わす盃は懐古談に花が咲き、額に深い皺を浮かべ、白髪をかきあげながら語り合う姿に七十余年の年輪がはっきりと窺われました。カラオケから校歌、勝利の曲と想いは若き日の高松原頭に馳せ、一瞬老いの血が燃え上がるほどの出来に、せっかくの隅田川の夜景も鑑賞せずに下船となりました。

会を経るごとにめっきり減ってくる会員の現況が通院・病臥・死去と聞きながら、七十余年を戦争・復興・安定・飽食と実に波乱に満ちた運命であったが、よくぞここまで乗り越えてきたものよとしみじみ述懐しつつ、これから先そう何回もできない総会を有意義に終了しました。

（中39　林　重隆）

江戸東京博物館に集合した会員

住職の心遣いに感謝
三四会の慰霊祭

昭和十年三月校門を出てより、いつか六十年の歳月を経る。昨年五月、クラス会を兼ねて級友の慰霊祭を行った。将来を大いに嘱望されながら夭折した日本画家、級友蒲生至生君所縁りの正永寺に集合。控え室の床に至生画伯の見事な遺作が旧友を迎えるがごとくに掛けられ、出席者二十六名懐かしく拝見し、住職の心遣いに大いに感服す。

本堂での物故者七十二名の慰霊法要後、バスで本館改築中の母校へ。見学後、懇親会場ホテル吉村へ移動する。

宴大いに盛り上がり、互いに旧交を暖め、盛会のもとに次回開催を約して解散す。時、六時過ぎか、陽はすでに西山に没していた。

（中34　代田伍朗）

三十五年同期会
高13回

九月十五日午後二時、母校へ集合した八十五名は新装なった校舎を中田日出人先生の案内で見学し、大宮温泉に移った。

そこでの三十五周年記念同期会では、同期の長源寺住職早川英章導師による物故者の追悼式を行い、さらに同期の時事通信記者長沼節夫氏の「戦後史を歩く旅」と題する講演会と続いた。

最後は祝宴。三十五年前に戻り、「やぁ久し振り」と盃を重ねること二時間、平沢春樹君の往時の応援団により校歌を合唱して閉幕した。

（高13　筒井　毅）

「併設」考
併2　小林　多門

先日、ある会合で、たまたまこの会の飯田高校出身者は誰で、誰が先輩で、という話題が出た。私が「併設二回」だと話すと、後輩から「併設中学とはどんなものであったのか」との質問があった。当時の学制改革を思うと、まさに時代の流れを痛感した次第である。

そこで、私たちの入学当時の時代背景について説明することになった。

すなわち、昭和二十一年に旧制飯田中学に入学したこと。翌年、「六三制」という学制改革があり、新制飯田東高校（後に校名変更）が誕生し、自動的にわが学年と一年上の学年が「併設」中学校在籍となったこと。各市町村に新制中学校が設立されたため、以後われわれより後輩の入学がなかったこと。

また、当時の学校生活の一端として、予科練帰りの上級生のお説教、墨塗り教科書での学習、下駄履き通学、貨車通学の電車党等について回想を交えて語ったのだった。

結末として、昭和二十四年三月をもって併設中学校は閉校となった。そのまま在学すれば、私たちは「高4回卒」となったわけであるが、当時はまだ戦後の混乱期。「併設」で終了した者の大半は疎開者の帰郷、家事都合による就職、家庭が転勤族で他の新制高校へ進学した者等々、各々の人生を歩んだ。

以来、はや半世紀。いま、「併設」の名簿を見るにつけ、過渡期の教育行政の谷間で消えた、変則的な少学級とはいえ、隆々たる母校飯田高校誕生の懸橋となり、伝統を継承した諸兄の誇りと青春の息吹をそこに感じとることができ、感慨一入である。

建築途上の正門が記念撮影のバック
― 三五会 ―

私たちの年代は戦争によって貴い命を失われた者が多く、それらの方々を含めて、現在物故者は七十八名。卒業当初の在籍者百三十八名の過半数にも及ぶ。

昨年、私たちの大部分は喜寿を迎えたが、同級会（三五会）は毎年続けられている。

昨年は飯田市内の舞鶴で開催。開会前に本館建築中の母校を訪れて、宮下同窓会事務局長から新しい校舎の構想等を聞き、正面玄関の大陶壁画を見学。建築途上の正門をバックに、元気な姿を記念撮影した。一同往時を偲び、感無量であった。

舞鶴においては、飲む程に中学生時代に戻り意気軒昂、往時の面目躍如たるものあり。最後は校歌を声高らかに歌い散会したが、傘寿・米寿と、幾つになっても続くことを願っている。

（中35　木下義正）

中年の域に達した高32回 再会が楽しみ

私どもも、卒業してすでに十七年の歳月が過ぎ、図らずも中年の域に達しつつある年代になり、社会の荒波の中でそれぞれの日々を重ねてきたことと思います。同級会を定期的に開いているクラスもあれば、事情があって卒業以来一度も集まっていないクラスもあります。

しかし、本校における三年間の学生生活は、三百三十名余の同期生それぞれの心の中にはっきり刻み込まれています。同期生一堂に会して校歌を歌える日を楽しみに、これからも日々研鑽して参りたいと存じます。

（高32　池野兼浩）

同年会だより

三六会は高山で

○名も高し　高山祭りの
　屋台連
　宮川畔に人の群あり

十月九日当日参集した会員は、総会後懇親会を終え宵祭りに揃って出掛けた。十五万人余の見物客の群に身動きもできない状態であった。

次々に現れる絢爛豪華な屋台が、折からの満月に映えて歓声と拍手の渦の中に、我々はただ見とれるばかりであった。十一台の屋台の陳列はまさに動く陽明門の名にふさわしいものであった。

本大会に参加した飯伊勢はマイクロバスで高山へ入った。翌日は紅葉の乗鞍スカイラインを越えて、帰飯した。

関東・関西勢は〝飛騨の里〟や〝高山陣屋〟を見学、徳川時代からの歴史の一齣を思い起こした。

また古い町並を散策し、ショッピングの後飛騨そばを味わい、祭り談義に花を咲かせた。その後、高山駅前で、次年度飯田大会での再会を約し解散した。

予定した二日間は晴天に恵まれ、意義ある二十五回目の高山大会を終了することができた。

喜寿を過ぎた会員は、それぞれの持ち味をいかし、今日を明日を語り合い楽しい一刻を送った。

○山高し　その名も高し
　高山の　祭りはうれし
　友と語ろう

（中36　木下　淳）

三六会　総会

四十二回生会　中42

平成八年も、例年の様に二月十一日（建国記念の日）に飯田の和太仙で総会をもった。今年は都合で出席者も少なく、三十名を欠いた。例年は三〜四十名である。当番長挨拶、前年の二月以降一年間の主な出来事、一般会計、弔費会計の報告等があり、あと協議に入る。

東京方面に出て活躍している同期生が「しのぶ会」を組織し、これまた親睦会をもっているが、その諸君の声として、「お互いに高齢になった。二月は寒い。総会を暖かい時期にかえたら。」とのこと。「随時発行している四十二回生会会報でアンケートをとり、その上で考えよう」となり、その結果、次期当番一任となった。

あと懇親会、盛会である。飲み語り、最後に校歌、勝利の曲を手を打ち、足ふみならして歌う。健康管理の大切さを確認、再会を期して万歳。平成五年五月には卒業五十周年記念総会を物故者の慰霊祭を兼ねて盛大に行った。共に学んだ絆は強い。

（中42　田中幸美）

我ら旧校舎一回生

飯田高校の新校舎落成祝賀行事が十月十二日行われると聞く。長坂同窓会長始め関係各位のご努力に感謝致します。

我等二九回は大正一四年三月長姫城跡の県立飯田中学校に入学、その年の十二月高松の新校舎に移転した。従って新校舎初の一年生となった次第である。昭和五年三月卒業夫々の希望に向かって進んだその数百四十二名である。当時は大不況時代であった。翌六年には満州事変勃発、続いて支那事変となり遂に大東亜戦争となる。我等道一筋に進まず。国の為献身努力するも昭和二十年敗戦、国破れて山河ありの感胸を打つ。校舎も数々の増改築が行われたがここに七十二年の年を経て今新しい校舎に変わる。誠に感慨深いものがある。人体は建て換えることは不可能なるも心の立て直しは出来る筈、二十九回の生存者は四十名となりその半数は身体不調である。年齢八十五ともなれば止むを得ない。鉄筋の校舎より長く生きたわけであり、中には市町村長、大学教授・博士・教諭、会社社長、農業経営者、商店主等々あり国のため世の為に尽くしてきた。

私は新校舎に学ぶ後輩に言っておきたい。即ち建学の精神に徹せよと。その精神は校歌の中に教えている。飯中より海軍諸学校を経て海軍士官になった（大半は戦死している）人々の戦歴経歴遺書等を綴った本が飯中ネビー会の手で出版されたがその本の名は「あゝ白雲の谷深く」である。

（中29大田茂穂）

甲子園が見える

野球部監督は、同期の田中正俊君である。卒業二十五周年を祝った時「田中と甲子園へ行こう」を合い言葉に在飯田有志が田中後援会を結成した。以来毎月十六日（16回卒業なので）同期生の焼肉の店「徳山」にひと月も休むことなく集まっている。酒を酌み交わしながら高校時代の想い出、世事評論、時には帰省した仲間も加わり丁々発止と楽しい夜を過ごしている。がやはり話題の中心は甲子園。昨年は優勝候補の一つ信工を下し、「甲子園が見えた」と意気軒昂であった。

今年は応援の甲斐なく一回戦で残念ながら敗退してしまった。「長野県は実力が拮抗しているので充分にチャンスはある」と、毎年春先は思っているのだが、今年もまた、江川卓がでてこなかった。彼が田中監督の前に現れたとき甲子園が見えてくる。その時まで我々は、田中監督を応援しようと思っている。

（高16　市瀬武彦）

高16回　総会

中・高併設の友

私が旧制の飯田中学に入学したのが昭和十九年で旧制中学48回卒で最終の旧制中学の卒業で、二十五年卒業は同期の高校3回卒です。戦中戦後の五〜六年間を混乱の中で青春を過ごした仲間だけに、未だに強い絆で結ばれ交友を暖めています。

私達の同期会は中卒48回と高卒3回と合同で毎年続けています。関東地区は一月の最終金曜に、飯田地区は盆過の土曜と決まっており母校の近況等を話しながら相互の交流を計っております。

十数年前東京で行われた同期会で郷里で毎年ゴルフをやり更なる交友を深めたいとの提案があり以後今日迄続いています。当時海外に赴任している友も居て全員の集まれる五月の末に決まり現在も里帰りを兼ねての楽しいコンペが続いています。六十台も半ばになった現在自適の生活に入った友も増え、淋しさも感じますが多感な青春を共に過ごして来た友情は今後も大切にして行きたいと思うこの頃です。

（中48　久保田和宏）

中48・高3合同コンペ

三三会のこと

昭和九年三月旧制飯田中学卒業が三十三回目だったので同窓会の名称としたのである。

昭和四年三月同校志願者二百六十人合格二百人だったのが、卒業時には百三十九人だった。途中転校、自主退学、病死、留年などで六十余人が欠けたが、当時の世相はひどい経済不況、思想混乱時代で家庭の事情で退学した者が多く、また、戦争をはさんで戦死、病死、行方不明などで、本年八月末の調査によると生存者約六十七人、飯伊在住者三十三人である。

昭和六十三年に生存者六十五人から原稿が集まり「古希記念文集」が発刊された。文集は箱入りで二百六十四頁の布表紙の完本で、戦前戦後の三三会員作の写真、絵画書道など三十数点が随所に収蔵されている美本である。その頃飯伊在住者より絵画、書道、写真を集めて飯田創造館で「三三会古希展」を開催して四日間一般供覧して好評を得た。

（中33　後藤光止）

三五会のこと

私ども第12回生も、昭和三十五年卒業以来早いもので三十六年目を迎えております。年齢的にも今、子供達が自立する時期で、結婚等、又孫を持たれる年齢になっております。昨年35周年記念式典を、天竜峡にて実施し、メンバー多数参加のもと盛大に花が咲きました。

地元に於いては、毎年幹事のご努力で年三回の定例「三五会」が開かれ、地元同期生のいこいの場となっております。また、東京近郊に同期生も多数おられ年七回の例会を行い、交歓の中で懇親を深めているとの報告をうけております。私どもの年代は社会的にも地域においても必要とされる人が多く、その能力を生かし活躍される事を願うものですが十分気をつけなければいけない年代であり、各人の健康維持を一番願うものです。

（高12　新井博治）

激動の世　共に校門をくぐった絆

秋に三島事件、翌年連合赤軍あさま山荘事件、さらには日中国交回復と、変動する世界の軋みを谷の片隅で、「赤尾の豆単」を暗記しながら聞いていた。しかし、世はまだ高度成長期、地球環境問題など聞いたこともない、左翼も健在。暴力で世界変革をたくらむ個人の集団エネルギーにおどろき、震撼しながら、三年過ごした。

「都の塵も通い来ぬ」谷であることは、入学後、応援団からお説教のように校歌で洗脳されていた。やがて進学、就職で殆どの人がいったんふるさとを離れたが、そこで第一次石油ショックが待っていた。そんな思春期を送った私たち25回生が、来年卒二十五周年の節目を迎える。このほど、その準備委員会が発足し、代表に原久君（税理士）を選出したほか、事務局体制が整った。ほかの学年ではあまり聞かない「二十周年」も決行するなど、結束が強いと自負する学年でもある。来年秋の記念行事も、何より私たちにとって意義深いものにしたいと思っている。

（高25　後藤収弘）

延々と続く二六会

高26回の全国大会が本年六月七日、約七十名が参加して、かんぽの宿〝諏訪〟で開催された。

清水省三君の総合司会によって始まり、三十五名に及ぶ物故会員鎮魂慰霊式では、外松源司君の追悼のことばに故人を偲び冥福を祈った。

続いて、枝吉清種君の開会あいさつ、中島偉夫本大会代表幹事、木下岳男東京二六会代表がスピーチを行った。また、宮下洌同窓会事務局長から、母校の校舎改築事業の進捗状況及び記念事業の報告があった。

久しぶりに歌い、聞く校歌に、多感な青春に思いを馳せたのであった。

最後に、母校独立百周年（西暦二千年）に二六会全国大会を地元で開くことを了承し、鈴木達雄君の浅草三社締めによって大会を閉じた。

（高3　中島偉夫）

一九会30周年

去る九月十五日、高校19回卒業生（一九会）の三十周年記念総会が、恩師の先生方や、山崎校長先生、同窓会宮下先生など来賓ご臨席の下、約百名の参加を得て、松川会館で開催された。

絶好の秋晴れに恵まれ、小旅行組は、恩師と共に天竜川ライン下りで、たらふく鮎を頬張り、陶芸館で粘土にまみれて珍品製作に汗を流す。

珍プレー続出のゴルフ組は、高森カントリークラブで爽やかな汗を流し、見事に岩下友観君優勝。

夕刻それぞれ合流し、新装なった母校を見学。威風堂々たる母校の勇姿に驚嘆し、声も出ず。

総会では声高らかに校歌を斉唱し、母校、恩師、故郷に感謝しつつ、物故者に黙祷を捧げ、マドンナとの久しぶりの再会を密かに喜ぶ。

お詫びと訂正

今回発行された会員名簿に誤りがあります。お詫びして訂正いたします。高19回北沢準一郎氏は、元気で活躍中です。

（高19　新井雄三）

学園だより

眠れる獅子

生徒自治会長　堀口　謙治

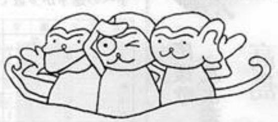
僕たちが生徒自治会を受け継いでから早くも一年間が過ぎようとしています。

ここ数年の間、飯田高校生の自治に対する関心が低いことが指摘されてきています。この一年間を振り返ってみると、それは正しいと言わざるを得ないことがわかります。

去年の選挙で、僕や副会長、執行委員、そして議長など、すべて信任投票で選ばれました。つまり落選者がいない選挙でした。僕自身としては選挙で争う相手がいないことは一向に構わないことです。しかし、ほとんどの飯田高校生が自治会に積極的に係わりを持とうとしない現在の状況を表している感じがしました。

しかし、飯田高校生の自治能力が衰えたとは思いません。長年問題となってきた、いわゆる「上下履き問題」は僕たちの代で解決できたと言って良いでしょう。また、高松祭のファイヤーストームでは、例年になく盛り上がり、先生方を驚かせました。

このように、確かに自治に対する関心は低くなりつつありますが、飯田高校生の持つ自治能力は衰えてはいません。能ある鷹は今、爪を隠しているようです。



高松祭のシンボルマーク

見るサル　聞くサル　言うサル

高松祭実行委員長　松長　宏幸

見ざる聞かざる言わざるとは、自己主張を抑えた消極的な態度が生きのびる手段として大切であることを意味しています。このような保身の教訓は、確かに大切ですが、文化祭ではむしろ自分達を理解し合う上で重要な積極的な態度が必要です。

「見るサル聞くサル言うサル」このテーマには伝統ある高松祭にふさわしく、素晴らしい願いがこめられていました。

本当の意味での「全員参加」とは、ただ文化祭にいるのではなく、価値ある文化祭にしようと会員全員が自分から進んで文化祭に参加することで、自分自身を振り返って見つめ直す意味でも、見て、聞いて、言いたいことははっきり言って、全員で素晴らしい文化祭を築こうじゃないか、そんな願いがこめられていました。

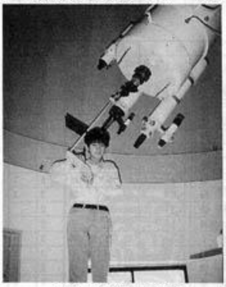
このテーマの下、多少の問題点はありましたが、第41回高松祭は無事に、大成功を収めることが出来ました。

仲間と肩を組み合って全力で駆け抜けたファイヤーストーム。のどがかれるまで歌った校歌の響は、一生忘れない思い出になりました。

コンピュータ制御の天文ドーム

天文班

飯田高校の改築とともに天文ドームも新しくなりました。天文班は毎日太陽の黒点観測をやっていますが、今までは望遠鏡を組み立ててやっていました。しかし新しくできた天文ドームのおかげで観測が効率的になりました。天文班では黒点観測のほかにも毎月一回観測会というのをやっています。ついこの間もやりましたが、新しい望遠鏡は見たい星をコンピューターに入力すれば自動的に合わせてくれます。まだそのコンピューターの使い方には生徒は十分習熟していないので、これから勉強して望遠鏡をフルに活用していきたいと思います。



天体望遠鏡を操作する班員

クラブ活動近況報告

体育系　～南信総体～

●陸上（男子）
一〇〇M　②坂牧　⑤清水
二〇〇M　②坂牧　⑥清水
　⑦太田
四〇〇M　⑤坂牧
八〇〇M　③小池
一五〇〇M　②小池
　⑤沢柳
五〇〇〇M　⑦沢柳
三〇〇〇SC　⑦大原
五〇〇〇W　①下平
　⑧塚平
四〇〇MR　2位
一六〇〇R　3位
三段飛　④永原
走幅飛　⑦奥村
（女子）
走幅　④井伊
走高　⑧井伊

●男子バレー【ベスト8】
1回戦シード
2回戦　2－0飯工
3回戦　0－2清陵

●女子バレー
1回戦0－2下諏訪向陽

●男子バスケット
1回戦　104－66辰野
2回戦　72－75岡谷工

●女子バスケット【ベスト8】
1回戦シード
2回戦　89－40諏訪清陵
3回戦　57－81赤穂

●ソフトテニス
男子団体【準優勝】
1回戦　2－0上農
2回戦　2－1赤穂
決勝戦　0－2弥生
個　人【2位】宮島・元島
【ベスト16】福澤・湯沢
女子団体
1回戦0－3下諏訪向陽

●テニス
男子団体
1回戦　0－2諏訪清陵
女子団体　1回戦

●卓　球【2位】
1回戦シード
2回戦　3－1富士見
3回戦　3－1飯工
準　決　3－2伊那北
決　勝　1－3弥生

●柔　道
男子団体
1回戦　4－0松川
2回戦　1－4岡工
3回戦　2－3辰野
　2－3赤穂
男子個人【中量級3位】
近藤圭三
女子団体【3位】
1回戦　2－1岡南
2回戦　1－2辰野
三　決　1－0下農
女子個人【52kg3位】
片桐さやか

●サッカー【4位】
1回戦　シード
2回戦　0－0上農（PK）
3回戦　1－0風越
準　決　0－1岡南
三　決　0－1伊那北

●ラグビー【2位】
1回戦　13－0伊那北
準決　56－0長姫
決勝　0－51岡谷工

●剣道
男子団体【4位】
1回戦　2－1飯工
2回戦　4－1弥生
準　決　2－3東海三
三　決　0－5岡谷南
個　人【ベスト16】伊藤
女子団体
予選R　0－4岡南
　4－1長姫
T　0－5赤穂

●弓　道
男子団体【3位】
Aチーム　20／40
Bチーム　16／40
女子団体【4位】
Aチーム　22／40
Bチーム　16／40
個人【3位】原田

●空　手
男子団体
組手【3位】2－3阿南
男子型【1位】
個人組手　③藤本
型　③中島⑤野村
女子団体
組手【1位】4－1風越
女子型【1位】
個人組手　①北原②中島③大塚
型　①北原⑤中島

800m 1500mで北信越大会に出場した小池君

●ソフトボール
1回戦5－18弥生

●バドミントン
男子団体【4位】
1回戦　3－1富士見
2回戦　3－1上農
準　決　0－3伊那北
三　決　2－3赤穂
個　人
S　⑦中島
W中島・木村ベスト8
女子団体
1回戦　0－3岡南

●新体操
団体【3位】

●水　泳
男子⑥四〇〇メドレーR
⑤四〇〇R
二〇〇m背　②北澤
　⑤滝川
四〇〇m自　②北澤
二〇〇m平　⑧福西
一〇〇m平　⑧福西
女子
二〇〇m自　④中島
五〇m自　⑧鈴木
二〇〇m平　④宮沢
一〇〇m平　④宮沢

文化系

●ギター班
全国ギターマンドリンフェスティバル出場（大阪）

●邦楽班
全国総合文化祭（北海道）で日本音楽部門に参加

●放送委員会
NHK県大会出場

●語学班
95年南信ロータリークラブスピーチコンテスト　1・2・3位
長野県パフォーマンスコンテスト出場　2位

●演劇　飯伊フェスティバル出場

●合唱
合唱コンクール2位

●囲碁班　県大会4位

●将棋班　県大会準優勝

●書道班　県書道展等出品

●美術班
県総合文化祭等出品

●吹奏班
南信地区大会2位

全国フェスティバルに出場した　ギター班

体育系　～県大会～

●陸上
一〇〇M　⑥坂牧
二〇〇M　⑤坂牧
八〇〇M　④小池
一五〇〇M　④小池
五〇〇〇MW　④下平

●男子バレー
1回戦　0－2県が丘

●女子バスケット
1回戦　62－72　上田

●ソフトテニス
男子団体
1回戦0－2南安曇農業
個人B16　宮島・元島組

●卓球　団体4位
1回戦　3－0長野吉田
2回戦　3－1長野商業
3回戦　3－0南安曇農
準決勝　0－3松商
三決定　2－3須坂商業

●柔　道
③中量級　近藤圭三

●サッカー
1回戦　1－2長野日大

●ラグビー3位
2回戦　65－0須坂
準決勝　5－26岡谷工
三決　39－0長野

●弓　道
男子団体　2回戦
女子団体　4位
女子個人　原田　予選R

●空　手
男子　型　6位
女子　型　予選6位
個人　北原　準決勝進出

●バドミントン
団体　2－3上田西
個人　S　中島　2回戦

●新体操
団体　10位

●弓　道
男子団体2－2県ケ丘
　5－5長野東
　2－3上田
女子団体3－2上田東
　0－4長野商業
　2－2田川

●野　球
〈全国高校野球選手権〉
1回戦　3－10長野東
〈秋季北信越〉
1回戦　3－1駒工
2回戦　10－3二葉
3回戦　1－14弥生

この人に聞く

応援歌「友よ若木の」の作詞者 高島 三郎氏（高七）

若木のように はつらつと

　九月初旬、佐久市岸野小学校に、高島三郎氏をお訪ねした。子供たちの歓声の聞こえる校長室に、にこやかなお顔でお迎えいただいた。

―作詞の動機や経緯を。
　昭和二十九年。校友会の役員から、わかり易い応援歌を作ろうじゃないかという話が持ち上がり、たまたま書記をしていた原広司君（現東大教授、飯田美博の設計者）と私に依頼され、当時文学班の班長をしていて、詩や小説などを書いていた私が詞を、原君が「俺が曲をつけてみよう」と、作曲をした。曲はたまたま通りかかった音楽の先生に見て頂いて、「少し直したら」と言われたが、原君は、「これでよいのだ」と引かなかった。
　その後評議員会にはかり、応援歌として定着し屋上などで全校生徒を集めて練習したりした。

―どんなところに力を入れたのか。
　ただ、難しいことばをもて遊ぶのではなく、皆に親しまれるように、ことばも平易にして、「若木のようにはつらつとした友達よ」アピールしたかった。

―先輩として、後輩に望むことは。
　生徒会はやる気に満ちていて、応援歌もそうだが、校名「高松高校」の名称についても論議が沸とうしていた。
　当時は実にハングリーの精神が強かった。慣れ合いに流されず、視野を広く、何ごとにも、さぼるものがほしい。時代は動いている。その時代々々に即応して、精一ぱいの生み出す力をほしい。

―佐久に定住されて。
　同級生には優秀な友人が多かった。私は教師の道を選び、泰阜が初任地であったが、佐久に定住し、子供の心の問題に取り組んで来た。今年で定年。「生涯青春」の気持ちで、ゼロへ返る自分の心構えを作っている。趣味の民謡や三味線で、時々「天竜下れば」や、「竜峡小唄」を吟じては故郷に思いをはせている。
　学校をとりまく広々とした佐久の稲田を渡る初秋の風が肌に心地よくさわやかだった。

（写真・文　宮下）

卒業生進路状況

　平成5年度頃より、女子の短大・専門学校への進学が減少して、大学進学が目立ってきている。また、男女とも国立大学志望者が増加傾向あり、国公立進学者も増加している。本年度の進学状況も例年並みの結果であり、現役進学率67.3%は県下進学校の中で上位である。ただし、いわゆる目玉となる大学への進学が少数であった。

大学名	現	卒	大学名	現	卒	大学名	現	卒	大学名	現	卒
国立大学			琉球	1		成蹊		3	金城学園	1	
北海道		1	国立大学計	85	27	成城		1	椙山女学院	1	
北海道教育	1					聖心女子	1		中京	4	
秋田	2					専修	3	2	中京女子	2	2
山形	1		公立大学			大東文化	5	5	中部	2	1
福島		1	群馬県立女子	1		拓殖	7	2	名古屋商科	2	
茨城	4	1	東京都立	1		中央	4	9	名古屋女子	2	
図書館情報	1		富山県立	1		津田塾	1		藤田保健衛生	2	1
筑波	5		金沢美術工芸	1		帝京	4	2	日本福祉	5	1
宇都宮	1		都留文科	3		東海	6	3	名城	3	2
群馬	3	1	長野県看護	1		東京経済	3	1	京都産業	2	
埼玉	6	1	静岡県立	1		東京慈恵会医科	1		京都女子	2	
千葉	4		愛知県立	2		東京女子	3		京都薬科	2	
お茶の水女子	2		滋賀県立		1	東京女子医科		2	京都橘女子	3	1
電気通信	3		公立大学計	11	1	東京電機	1	1	同志社	3	4
東京外国語	1					東京農業	3	3	佛教	1	1
東京学芸	2					東京薬科	2		花園	2	2
東京商船		2	私立大学			東京理科	6	4	立命館	15	5
東京農工	2		北海道医療	1		東邦	1	1	龍谷	2	4
一橋		1	仙台	2		東洋	10	4	関西	5	1
横浜国立	2	2	東京国際		3	日本	13	9	近畿	2	4
新潟	2	1	獨協	2	2	日本女子	1		桃山学院	1	1
上越教育	2		文教	8	1	日本体育	2		関西学院		4
富山医科薬科	1		淑徳	2		法政	7	6	甲南		4
金沢	2	2	千葉工業	4		星薬科	1		奈良	2	1
福井医科		1	東京情報	2		武蔵	2	1	川崎医療福祉	1	1
山梨	4	1	亜細亜	4	3	武蔵工業	6	1	福山	1	1
信州	10	2	青山学院	3	4	明治	2	6	その他私立大学	34	19
静岡	8	2	大妻女子		1	明治学院	4	4	私立大学計	304	194
名古屋	2	1	学習院	2		明治薬科	1				
岐阜	1		北里	5	2	立教	2				
三重	2	1	共立女子	2		立正	1		短期大学		
京都		1	共立薬科	3		早稲田	4	7	国公立短大	17	2
京都教育	1		杏林	1	1	神奈川	4	4	私立大学	38	3
大阪外国語	1		国立音楽	1	1	神奈川工科		4	合計	55	5
神戸	1		慶應義塾	2	6	関東学院	2	1	専修学校		
神戸商船	1		工学院	1	1	昭和音楽	1	1	看護専門学校	10	1
奈良女子	1		國學院	2	2	東京工芸		2	その他専修学校	16	2
和歌山	1	2	国士舘	7	1	山梨学院	5	3	合計	26	3
鳥取	2		駒沢	5	3	聖隷クリストフ	2				
愛媛		1	実践女子	3		愛知	1	2			
高知	1		芝浦工業	5	2	愛知医科		1	就職		
九州		1	順天堂		1	愛知学院	4	2	県内	2	
佐賀医科		1	上智		1	愛知工業	4	2	県外	1	
鹿児島	1		昭和薬科	3		愛知淑徳	2		合計	3	

会員訃報

中19関　通成6・8・19
中22大野　実雄6・11・21
中22玉置　敏夫8・1・23
中24関島　久雄7・6・5
中26塩沢　順8・4・22
中26市瀬　麟三7・2・22
中26武田　信7・7・24
中27加藤　寛美8・1・12
中28久保田正助7・10・30
中28齋藤(吉川)紘三7・5・30
中29上沼　光平8・2・3
中29大沢　正人5・11・14
中29加藤　良一5・6・20
中29清水　靖夫7・10・9
中29河野　豊治6・3・17
中29寺沢　美司6・6・26
中29古橋　和夫7・7・23
中30飯田(牧野)清男7・2・4
中30市瀬　武寿4・4・9
中30太田貢佐夫6・12・7
中30片桐(宮島)河人8・7・19
中30羽生　敏久8・8・14
中31新井　典雄8・6・4
中31今村　覚治8・3・12
中31木下　一人8・1・15
中31木下　昌之5・10・4
中31久保田淳治5・12・4
中31窪田　保穂6・7・26
中31熊谷　忠男7・8・11
中31高坂(後藤)睦子8・10・20
中31小林　春雄7・3・16
中31佐々木　賢62・5・2
中31藤原　三郎8・10・25
中31宮島　淑郎8・8・10
中31古沢　冬司6・3・5
中32岩崎　正二8・8・4
中32片桐　孝7・11・4
中33倉田　利久7・3・16
中34井原　稲実62・5・19
中34松尾　良三8・4・4
中36原　菊夫7・11・8
中37熊谷　先7・8・7
中37秦　鴻7・8・26
中38今村　邦一7・3・31
中39椎名　剛雄8・2・16
中42仲田　乙8・5・9
中42塩沢　準三7・1・21
中42楯　義信6・12・25
中44尾関　祐降8・1・28
中44小畑　吉雄7・6・8
中45加曽利幸男7・8・29
中45原田　錬8・1・29
中45宮下　昇8・7・16
中46野原　義一7・1・1
中47林　順三6・12・11
中47松下　克孝5・10・12
中47矢沢　昇平6・3・6
高3今村　賢司7・11・16
高3熊谷　洋一8・7・24
高3篠田　敏久7・11・8
高4山下(堀)瑞枝7・12・23
高6大沢　一介1・11・6
高6幾島　博郷7・8・14
高7小池　清隆7・7・19
高7小林　文夫8・3・24
高8林　節6・9・6
高11塚田　道臣3・5・7
高11古田　義明6・11・18
高12原　征三6・9・6
高15福沢　初一7・4・19
高15吉川(中島)孝子4・7・16
高16稲垣　忍58・7・28
高18鈴木　正之7・1・9
高18林　信夫7・11・21
高18丸山(市瀬)精子7・9・15
高18松島　清彦8・9・16
高18森下　悦宏7・6・5
高21小木曽慎介6・9・23
高21杉山　隆造5・11・
高23宮内　稔8・1・28
高24小嶋　和人6・5・19
高25宮下　幸弘7・1・30
高27渡辺　誠6・3・16
高46片桐　伸悟7・4・24

寄贈品の紹介

同窓会へ今回寄贈された書籍等は次の通りです。（ ）内は寄贈していただいた方です。（敬称略）

「ああ白雲の谷深く」（飯中ネービー会）
「山岸忠彦画集」（中46山岸忠彦）
「松井石根大将の陣中日誌」
「語りつぐ大東亜戦争」
「アジアに生きる大東亜戦争」
「"南京虐殺"の虚構」
「南京事件の総括」以上五冊（中29田中正明）
「滝沢具幸画集」（高12滝沢具幸）
「彩霞ー桐の葉と照り明るものー」（中40三浦　宏）
「(続) 山ろく随想」（中33玉置辰雄）
「わたしたちに刻まれた歴史」ー追想の古島敏雄・百合子先生ー（古島史雄）

編集後記

　師走がもうやって参りました。年賀状を心掛ける季節でもありますが、私ども同窓会報編集委員は、会報をお届けしなければならない月でもあります。
　今年は本館の竣工記念式やCD発行、六年ぶりの会員名簿の編集発行など、目の回るほど忙しい年でした。会報も会員皆様のご協力もあり、八ページには入りきらないほどの原稿量があり、割愛せざるを得ないほどで、まさに「馬謖を斬る」思いでした。年一回の発行だと、今回見送れば一年先になってしまうため、無理に詰め込んだ次第。
　今後年二回の発行ができればと夢見ています。

編集委員
中47　酒井　寛
高4　平沢　秀明
高4　上松　公平
高12　小町谷勝世
高13　仲田　長三
高19　矢沢　昇
高25　後藤　拓磨
学校
高5　中田　學
高6　岩口　佳彦
高27　笹　行夫
高22　加藤　博
高23　池野　光治
高28　田中　雅孝
事務局
高3　宮下　洌

事務局だより

★新しい会員名簿が発行されました。これからご希望の方は、事務局へ直接または払込用紙によって申し込んでください。ただし、金額は四、〇〇〇円（送料込）となります。

★校歌・応援歌のCDは十月から頒布が始まり、申し込みが相ついでいます。在庫約二、〇〇〇部、再版には三週間がかかりますので、到達が遅れる場合はご了承下さい。

★個人番号について、不明の方が多いようです。これは会費の納入や、名簿の照合など、コンピューターの処理上大変能率的です。事務局では、他の目的には決して使うことはありません。
　六ケタの数字になっていて、次のような意味があります。事務局への連絡や問い合わせの際には、ぜひお使い下さい。

□□□□□□
学年番号（50音順）　卒回数
中…0　併…1　高…2